

「かごしまの先生」の魅力発信に向けた提言(骨子)

1 現状・課題

(1) 教員不足(臨時的任用教員の不足)の原因分析

- ・ 需要の増(大量退職, 特別支援学級の急増による教員の必要数の増)
- ・ 供給の減(労働人口の減, 臨時的任用教員の採用が進み“なり手”の減)
- ・ 教職のイメージダウン

(2) 受験者の確保

- ・ 新卒者(更なる志望者の確保)
- ・ 既卒者(他県や他職からの志望者の確保)

2 学生の声

(1) 教職の魅力

- ・ 子どもたちの成長を身近に感じることができる。
- ・ 児童生徒や同僚, 保護者や地域の方々などとの関係をもつことで, 自分の知見を広げることができる。
- ・ 異動があるからこそ, 離島も含めたそれぞれの地域の教育や文化に触れることができる。

(2) 教職への期待や不安

- ・ 周囲から「教員は大変そう」と言われるが, 「大変だけど, 教師っていいよね」と憧れられる存在になりたい。
- ・ 教育実習で, 児童主体の授業を構成する難しさを感じた。また, ICT活用の技術も足りないと感じた。

- ・ 保護者対応や部活動の指導など多くの業務を担いながら、自分自身のワークライフバランスの充実を図ることができるのか。

(3) 学生からの要望

- ・ 実際に働いている先生方ともっと交流できる場を設けていただき、現場の声を聞いてみたい。
- ・ 大学を超えて、教職を目指す学生間で交流の場があればありがたい。
- ・ 離島教育や複式学級教育について、学生のうちにもっと学びたい。
- ・ 採用試験を合格した短大生が4年制大学への編入を希望する場合にも、大学院特例と同様の猶予を認められるようにならないか。

3 提言内容

◎ 前語り

- ・ 「かごしまの先生」の魅力(鹿児島を持つ地域の独自性:離島等)
離島やへき地での勤務について前向きなアピール
⇒ 離島・へき地での経験を通して教員として成長できる
 - ・ 小規模校ならではの1人1人の児童生徒に寄り添う経験ができる
 - ・ 地域社会に根ざした豊かな経験ができる
- ・ 働きやすい環境の整備
(教職の不安解消, ワークライフバランスの充実等⇒生き生きと働く先生)
- ・ 働きがい向上する環境の整備
(満足できる授業, 段階に応じた研修体制の充実等⇒学び続ける先生)

◎ 教育委員会に取り組んでほしいこと

(1) 教員・学校向けの取組

- ・ 教員自身の意識改革
- ・ 管理職のリーダーシップによる学校組織の意識改革
- ・ 学校や教員が担うべき業務の見直し
- ・ 教員が取得できる各種休暇制度(福利厚生制度)等の再周知

(2) 保護者・地域向けの取組

- ・ 働き方改革推進のためのメッセージ発信(地域・保護者へ)
- ・ 業務3分類に関する理解促進

(3) 行政の取組

- ・ 教員を支える専門スタッフの拡充, 校務DXの推進
- ・ 研修・支援体制の充実
 - (管理職) マネジメント力の向上
 - (一般職) 達成感・充実感が実感できる研修体制の構築
 - 若手職員に対するカウンセリング・フォローアップの実施
 - 離島や小規模校の職員がより研修を受講できる環境整備
- ・ 部活動の地域移行の推進(部活動の位置付けを含めた)
- ・ 採用試験の見直し(試験日程, 特別選考など)
- ・ 特別支援学級の在り方(国の通知の再周知)
- ・ 民間企業との連携(ICT活用やプログラミング教育など)

(4) 大学・短大の取組

- ・ 教員養成系学部学生の受験者増に向けた取組の推進
 - ※ ICTや特別支援教育などの今日的課題に関する授業の充実
 - ※ 離島, へき地での教育実習等の実施
- ・ 教員養成系以外の学部学生の受験者増に向けた取組の推進

(5) 学生(これから教員を目指す皆さん)へのメッセージ(仮)